

知っていますか？レジオネラ

◆レジオネラ症とは

レジオネラ症は、人から人に感染することはありませんが、レジオネラ属菌を含んだ微細な水しぶき（エアロゾル）を吸入することで起こる感染症です。病状の進行が早く死亡することもある「レジオネラ肺炎」と、インフルエンザに似た症状の「ポンティアック熱」に分けられます。乳幼児や高齢者など抵抗力の低下している人がかかりやすい傾向にあり、発熱、寒気、筋肉痛などの症状が現れた際は、早期に病院を受診することが大切です。

レジオネラ属菌とは…

土壌や河川など広く自然界に生息し、一般に 20℃～50℃で繁殖し、36℃前後が最も繁殖に適した温度といわれています。また、繁殖するためにアメーバなどに寄生し、他の細菌や藻類などから必要な栄養分を吸収するため、ぬめり（生物膜）に生息していることがあります。

◆レジオネラ症の感染源と発生予防

衛生管理の不十分な水循環設備（循環浴槽水や冷却水など）が感染源となることで知られています。

- ・循環式浴槽、加温プールや採暖槽

→浴槽水の換水及び消毒の徹底により、レジオネラ属菌のえさとなる栄養源の除去、菌を死滅させることが重要です。

- ・空調用などの冷却塔の冷却水

→冷却塔および冷却水について、一月以内ごとに一回、定期的にその汚れの状況を点検し、必要に応じ、清掃及び換水等を行いましょ。【参考】厚生労働省「建築物における維持管理マニュアル」

- ・加湿器（特に超音波式加湿器）やミスト発生装置（ミストを発生して周囲の温度を下げるもの）

→給水には残留塩素が含まれる水道水を使用し、毎日水を入れ替えて容器や配管を洗浄しましょ。ぬめりがある場合はこすり洗い等で除去しましょ。



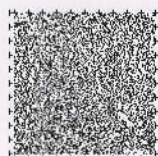
◆都内のレジオネラ症集団発生事例

① 2024 年 9 月～11 月 超音波ミスト発生装置付きインテリア用品が原因の事例（患者数 41 名）

飲食店で使用していた超音波ミスト発生装置付きインテリア用品（以下、機材）を原因とした集団発生がありました。機材の清掃の頻度・方法が不十分であり、レジオネラ属菌が増殖しやすい状況だったことが判明し、都は本機材の適切な管理方法等について指導しました。

② 2024 年 7 月～8 月 冷却塔が原因の事例（患者数 24 名）

半径 500 m 以内に患者の自宅が集まっており、感染源のひとつとして冷却塔が特定されました。当時の 7 月～9 月の月平均最高気温は 3 か月連続で 30℃ 以上を記録し、環境中の水がレジオネラの発育に適した 36℃ 前後を保つ期間が長くなっていることも一因として考えられました。



都保健所では、公衆浴場や旅館の入浴設備、プールなど、レジオネラ症患者発生の感染源となりうる施設に対して立入検査や講習会を行い、レジオネラ属菌が生息しないよう維持管理の指導に努めています。

—お問合せは生活環境安全課環境衛生担当へ—